

ダヴィンチ

ほりだし
本

and more...

世界から注目を集める小さな村の 人気と元気の秘密が今明かされる

葉っぱをビジネスに！。その小さなひらめきが、高齢化と過疎に悩んでいた危機的状況の農村に大きな成功をもたらした。

今年年間数千人も視察者が訪れる徳島県上勝町。そこで料理のつまもの用の葉っぱを育てているおばあちゃんたちの笑顔を集めた写真集が、自費出版にもかかわらず売れ続けている。

「テレビや雑誌で紹介されたこのいりどり事業のことを知っている人や、スローライフに興味がある方が、ネットや口コミを通じて購入してくださっているようです。書店にほとんど流通していないのに予想以上の売れ行きで、私自身も驚いています」

そう語るのは、本書を企画・編集した立木さとみさんだ。

「70〜80代のおばあちゃんたちが、葉っぱで年収1000万円を稼いでいたりするので、金儲けの話と誤解されやすいんです。が、実際はそうではないんですね。私が現地の人々を1年半かけて取材して感じたのは、社会との接点があり、自分の出番が

あることが、人の人生や精神面をいかに充実させるかということです。それまで村には売れる野菜もなく、自分の不幸を他人のせいにして、朝から愚痴を言い合っていて、身体もあちこち痛がる高齢者が多かったんだそうです。それが今では皆『いりどり』に忙しくて、愚痴を言ったり病気に罹っている暇がない(笑)。毎日

パソコンやFAXを使いこなして、売上や市況をチェックしているの、むしろ脳が若返ったと喜んでいるくらいなのです。見てつくづく思いました。人間、

リタイアなんかするもんじゃない、と。ないものねだりではなくあるもの探しをする。そんな価値観の変化がこんなにも人を幸せにするんだということ、この本を通して多くの人に伝えられたら嬉しいです」

上勝町には、お年寄りの子どもや孫たちも大勢戻ってきたという。この写真集には、人間の生きる原点が詰まっている。

『いりどり おばあちゃんたちの葉っぱビジネス』 立木写真館

『いりどり』は「Amazon.co.jp」でも購入できます。
「いりどり」と「おばあちゃん」の複数ワードで検索するとスムーズです。



写真/94歳の中野フクエさん(上)
田村さんの青もみじパック(下)



立木写真館●1980年のNHK朝の連続テレビ小説「なっちゃんの写真館」のモデルになり、婚礼写真の前写し(前撮り)を初めて確立したことでも知られる徳島の由緒ある写真館。『いりどり』は、創業123周年記念企画として出版した。写真家立木義浩氏の生家でもある。